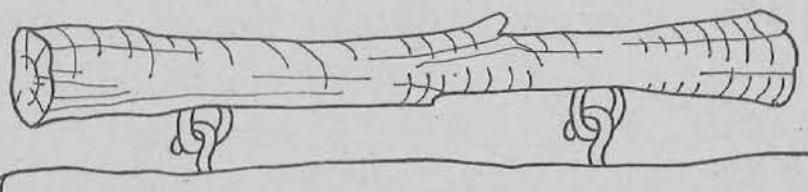


## ちかい

私は、名誉にかけて、次の三条の実行を誓います。

1、神(仏)と国とに誠を尽し“おきて”を守ります。

1、いつも、他の人々を援けます。

1、体を強くし、心をすこやかに、徳を養います。

## おきて

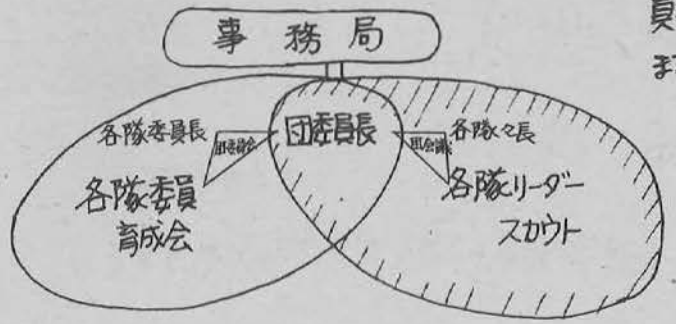
1 スカウトは、誠実である。
2 スカウトは、忠節をつくす。
3 スカウトは、人の力になる
4 スカウトは、友誼に厚い。
5 スカウトは、礼儀正しい。
6 スカウトは、親切である。
7 スカウトは、従順である。
8 スカウトは、快活である
9 スカウトは、質素である。
10 スカウトは、勇敢である。
11 スカウトは、純潔である。
12 スカウトは、つつしみ深い。

だんぽう
# 陽蜂
第9号 1974.8.22 京都ボーイスカウト事務局発行

サンパチ関係者の皆様　残暑御見舞申し上げます。あれやこれやと言う間に、夏の各隊活動も終わり、各隊は新らしいスカウトを受け入れる用意に余念がない近頃でしょう。

さて、長い間サンパチ事務局長として活躍してきた末吉晃氏が、今年度より、北山地区コミッショナーという役につきました。そこで、これを機会に、事務局長の座を譲るだけでなく、事務局というのは、あくまで、団内の各隊のリーダー間の'かなめ'であるという意図を新ためて見つめ直し、事務局に新らしい風を吹き込み、団組織を確立しよう、…というのが、現在の事務局の動きです。　この団報9号では、昨年来からの団決定事項を切り抜き、現在の状況を皆様にお知らせするものです。

ところで、下の図を見て下さい。今までの団委員会、団会議というものは、区別があいまいであったようです、これは事務局としての案ですが、とにかく、各隊リーダー及団委員長間の会議を定期的に持とう、ということです、少なくとも団会議の性質上、それだけで充分だと思われます。そういった団会議を中心として、必要時に団委員長により団委員会が開かれます。もちろん、事務局会議なるものもシコシコ開かれてゆきます。どうぞよろしく。



## 新事務局編成 及び役務分担

| | | |
|---|---|---|
| 事務局長 | 大藪 俊一 | ◎会議担当（団会議）<br>・モロモロの連絡を開く。 |
| 局員 | 原島和宣 | |
| 〃 | 中村三之助 | ◎行事庶務<br>◎事務局会計，事務局備品管理<br>団行事計画，各隊記録集計 |
| 〃 | 榎本信也 | |
| 〃 | 永野正己 | ◎登録，名簿作成<br>入隊、休隊 退団 |
| 〃 | 今村 脩 | |
| 〃 | 未吉平克 | ◎指導者育成<br>講習会、研修所 実修所の案内 |
| 〃 | 小川玄諦 | |

## 49年度団行事計画予定

- 上進式　1974. 8. 31　19.00～　長休寺裏庭
- 報恩講　1974. 11. 9　長休寺座敷
- 新年の集い　1975. 1. 1　8:30～　長休寺裏庭

他にハウス長休憩技会が春と秋に行なわれます。

## 〈カヌーの活動〉

カヌー隊活動の一年間の総仕上げとしての、山国永林寺での3泊4日の山伏修業も参加者全員無事故で終了した事は最も嬉しい事です。山伏修業プロも本部員総結集のスカウト的な内容の充実したものとなり、カヌーもしんどいが楽しい舎営生活を送れたものと感じております。スカウト自身の反省、本部から省みても、けじめのなさが目立ちました。これは人数の増加，組の増加という原因も考えられますが、舎営以前の隊．組活動で．何かが足りなかった様な気がします。これは、来年度に残した反省事項です。何はともあれ舎営で気がついたのは．プログラムの重要性で．深く考えられているほどプログの変更にも容易に対処できたことでした。本部員として常に念頭に置いた計画性あるプログラム．これが明日の明るい日本を作るのです。

又、隊活動が悪天候によるプログラム変更があったにもかかわらず、予定通り消化できたことは、佐藤育成会委員長を始め、皆様の活動と援助のたまものと深く感謝いたします。

色々と助言を頂いた小川先生、家庭生活との協調に、子供の安全に心がけられたDMさん、カヌー隊に奉仕いただいたスカウト諸兄、それぞれの皆様が「以和為貴」の精神にのっとり、相互理解と連帯感が育てられたものと確信します。

来年度の佐藤隊長へ全員の協力をお願いするとともに、スカウト精神の高揚、スカウト運動の発展がサンハナカヌー隊の名実共に日本一への前一歩であることを再確認して、本年度の反省と至します。

48年度カヌー隊 隊長　高木孟

# 浜詰隊野営

1974年7月22日から26日まで第17回少年隊野営が丹後浜詰海岸で行なわれました。参加スカウトはワシ、ヤギュウ、コイの3班17名で、本部スタッフは一時は12名にもふくれあがる大所帯でした。

さてここで浜詰キャンプを振り返ってみましょう。

去年の秋に新しい班編成があったと思いますが、その時から少しずつキャンプの準備は始っていたはずです。ですからこの一年の間に諸君の体・頭・腕は十分'そなえよつねに'であったと思います。また隊や班の備品についても、今年も役に立ってくれるよう十分な手入れと保管が行なわれていたはずです。(注事実はどうもそうではなかった。)

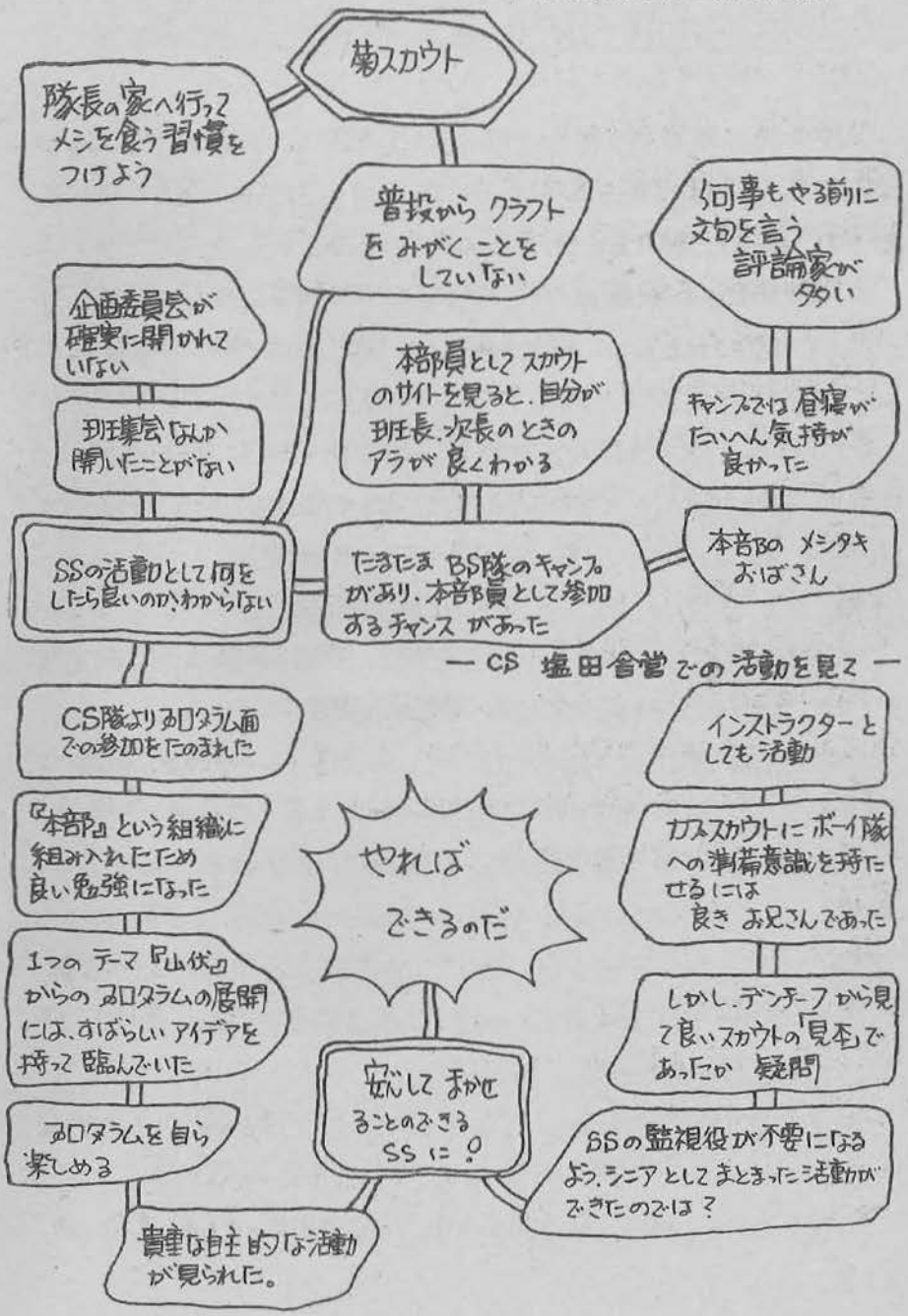
次に野営地へカメラを向けましょう。

第一日目は野営地に着くや設営が始まり、各班思い思いのサイトができ上がり、無事夕食にありつけました。(よかったですね! 隊長も安心してました)翌日は班集会・班営火で各班ともチームワークを盛り上げるのに良い機会だったと思います。魔の三日目はハイキング・夜間訓練で楽しい一日でした。夜間訓練のインベーダーせん滅大作戦は人気上々。四日目は二日目のプログラムに父兄参観と大営火をプラスしたもので、特に営火は暗闇の驚異を突き破る程の演技も飛び出し、野崎隊長率いるスカウト一族が火を囲む団らんという感じがぴったりでした。また各班サイトを見学してこられた小川先生の感想を参考までにお知らせしますと、「うーん。どうにか生きているという感じだ。」と言うことでした。来年はこう言うことは言われなくても済むようガンバッテほしいと思います。そして最後は例によって撤営、備品整理、反省……と続きます。

という具合に、昨日よりも今日、今日よりも明日という気持で努力してきた野営も終わりましたが、野営の間に目・耳・手……で得た色々のものを大切して、今後の活躍を期待します。最後にもう一度静かに反省してみませんか……。

## < シニア隊の活動 >

— BS浜詰隊野営での活動を見て —



# 入隊・休隊・退団 者の取扱い

## 入隊

入隊手続は事務局で取扱い、団委員会・団会議で、入隊を決定。但し、事前に本人に各隊活動を見学させ、あくまでスカウトとなる本人の意志で決める方針です。御父兄、紹介者の御意見は参考にします。

入隊説明会は各隊毎に行なう予定です。入隊願書は現在作成中ですがとりあえず紹介される方は、本人の氏名住所・学校・家族構成等を書いて、事務局まで御提出下さい。(毎年7月末までに提出されたものが9月新編成計画に入る)

事務局では、本人の性格等で判断するのではなく、あくまで本人が入団の意志を持っているかで決定したいと思っております。公平な判断によりますが、各隊の収容人数もあることですので、入隊できない場合は御理解下さい。

## 休隊

休隊者(希望者)は各隊長へ理由を添えて提出。各隊長が処理を決定します。各隊長は休隊決定したら事務局へ報告。

各徴収金は継続して徴収します。Camp,舎営等の不参加者への返金は至しません。また地区・京都連盟・日本連盟・世界連盟への登録は継続します。

最近、クラブ活動か、塾、受験、等の理由で休隊者が多く出ています。こういった意味で、各隊ではただ単に休隊を受理するだけでなく、前向きに対処する必要があります。

## 退隊

届け出用紙に本人及び父兄のサインをして、各隊長が受取り、事務局へ提出。処理は事務局で決定。

受理月以後諸費徴収は行ないません。ただし今までの受けとった納入金は返金いたしません。

「永遠のスカウト」というソングがあります。「なぜ退団者が出るか、真剣に考えて見ましょう。

# 団会計の入金内訳

| | C・S | B・S | S・S | R・S |
|---|---|---|---|---|
| 団育成会費 | 100 | | | |
| 団事務局費 | 100 | | | |
| 隊育成会費 | 200 | | | |
| 行事積立金 | 700 | 1.000 | 500 | —— |
| 備品費 | —— | 400 | 500 | —— |
| 父兄積立金 | 300 | —— | —— | —— |
| ハウス長休育管理費 | 100 | | | |
| 隊費 | 400 | 100 | 100 | 100 |
| 組費 | 100 | —— | —— | —— |
| 合計 | ¥2.000 | ¥2.000 | ¥1.600 | ¥600 |

上記の表の金額は毎月徴収されます。

他に
- スカウト保険料 ¥500− (年間)
- ハウス長休育成協議会入会金 ¥5000− (入団時
- 隊委員長・副委員長、事務局員費 ¥2000− (年間)

表中の隊費(C・Sを除く)は、各スカウトが自分の小遣いの中から、隊会計へ払い込みます。